

## 今後の予定

### ★ ビジネスプランコンテスト

オープンソースソフトウェア活用のビジネスについては、導入におけるコンサルティングやメンテナンスのサービス、オープンソース言語を活用したソフトウェア開発など、オープンソースの特長を生かしたビジネスが進められています。このオープンソースのビジネスモデルはまだまだ「未知数」の部分が多く、収益モデルの確立に向けた「探索期」が続いています。

オープンソースを活用したビジネスの可能性にさらに光を当て、オープンソース活用の気運を盛り上げていきたいという考えから、今般、松江市と協議会にて実行委員会を組成し、「松江オープンソースビジネスプランコンテスト」を開催することとなりました！

オープンソースを活用したビジネスに関心のある方からご応募いただきまして、オープンソース活用の可能性について一緒に考えさせていただけたらと思います。

なお、募集期間を11月中旬から1月上旬とする予定で現在準備中です。また詳細が決まりましたらご案内致しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。(丹生)

### ★ 第34回オープンソースサロン

11月21日(金) 18時30分から20時30分

テーマ1: 「オレゴンから愛 08 秋、GOSCON報告」  
丹生晃隆(事務局・島根大学産学連携センター)

2008年10月20日(月)~22日(水)にかけてオレゴン州ポートランド市で開催されたGovernment Open Source Software Conference (通称GOSCON) の参加報告です。オレゴン州は「オープンソースのメッカ」と呼ばれ、協議会でも2月の協議会USツアーにてBeaverton市のOpen Technology Business Centerやオレゴン州立大学Open Source Labo. を訪問し、現地のRubyist Communityとも交流してきました。今回は世界中から政府部門のオープンソース関係者が集まったGOSCONでRuby City Projectの報告を行い、国際交流を深めてきたので、その報告を行います。

テーマ2: 「オープンソースとシステムエンジニアリング」  
嶋津恵子(慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構・准教授)

嶋津先生はデジタルメディアが専門で、慶應義塾大学の知的資産のデジタルアーカイブ化をオープンソースを活用して行うDMCシステム構築プロジェクトの中心人物です。今回はRubyを含めたオープンソース・ソフトウェアをシステムエンジニアリングの中で活用する方策について講演を頂く予定です。

(野田)

## 編者後記

・島根におけるオープンソースの風を感じます

第二号にしても紙面が足りなくなり、今回はA4からA3サイズに変更してのお届けです。この調子でいけば、次号はA2サイズになるかも...

さて、今号はOSC2008Shimaneの話題が中心でしたが、最近では僕のまわりでもオープンソースの認知度が少しあがったような気がします。県内企業によるOpenOffice.orgの導入・運用サポートサービスも開始されるなど、OSSの小さな風が吹き始めているのを感じます。風は波を起こす力を持っているから、近いうちにこの風が波を起こすのではないかと考えるだけでワクワクしてきます。

次回の第三号は2月頃の発行を予定しています。(木村)

<http://www.shimane-oss.org/>

## OS4 ニュースレター

第二号 (2008.11.10)



しまねOSS協議会

## 活動状況

### ★ 総会報告

平成20年8月1日に、松江オープンソースラボにおいて、第3期となる協議会の総会が開催されました。振り返ると、2年前の2006年7月に設立が合意されて9月3日に設立総会を開催し、協議会も今期で3年目に入ったこととなります。会員の方々におかれましては、いつも協議会の活動にご協力をいただき、この場を借りて心より御礼申し上げます。

総会当日は、出席者だけで30名以上の会員の方々にお集まりいただきまして、大変盛大に執り行われました(机を「口」の字に配置するのが大変な程でした)。松浦正敬 松江市長、能海広明 松江市産業経済部長にも、お忙しいところご臨席をいただきまして、協議会の活動について様々な意見交換をすることができました。総会終了後にオープンソースカンファレンスのキックオフイベントともなった第33回サロンを開催し、宮原徹さんから各地域での開催状況を含めたお話をいただきまして大変勉強になりました。

今期の協議会も、OSS普及、IT産業振興、技術者・人材育成に向けて、様々な活動を続けて参ります。会員の皆様方には、今後ともご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。(丹生)

### ★ OSC in 京都ツアー報告

OSC2008Shimaneの開催が近づいてくる中、視察と心の準備を兼ねて7月18日から19日に開催されたOSC2008Kansaiへのバスツアーを企画し、大型バスをチャーターして25名で京都まで行ってきました。

今回視察したOSCは京都コンピュータ学院で開催されていたこともあり、学園祭のような雰囲気もありましたが、展示を見学したりセッションに参加してOSCの雰囲気をしっかり味わって、心の準備はこれでバッチリです。視察だけでなく『Ruby City Matsue リレートーク』と題し、発表もしてきました。朝一番のセッションにもかかわらず、会場は満席の大盛況。Rubyを中心とした島根での動きが注目されていることをひしひしと感じつつ、OSC2008Shimaneの開催もしっかりPRして、参加者全員がOSC2008Shimaneの成功を心に誓ったバスツアーとなりました。(川上)

### ★ Ruby勉強会 in 松江

Rubyに興味がある人が毎月第2土曜日に松江オープンソースラボに集まってRubyについて勉強する「Ruby勉強会 in 松江」を開催しています。2008年6月14日に第1回目を行ってから約半年が経ち、第5回目も無事に終わりました。参加していただいているみなさんに助けをもらいながら、継続して開催できていることをうれしく思います。

第4回目までは、Rubyについてある程度の知識がある人を対象にし、Rubyのリファレンスマニュアルを読みながらRubyについての知識を深めることを目的に行ってきました。しかし、第5回目からは、これからRubyを学びたいという人に対しても何かしたいと考え、午前と午後の部という2つの枠を設けました。

午前の部では、これからRubyを学びたいという人を対象に、Ruby on Railsというソフトウェアを使いながら、約半年をかけて、簡単なWebアプリケーションを作成することを考えています。

午後の部では、これまでと同様に、Rubyについてある程度の知識がある人を対象に、Rubyのリファレンスマニュアルを読み、Rubyについての知識を深めるということを行います。また、それだけではなく、Rubyを実際につかってアプリケーションを作成するときの疑問や問題点などを持ち寄って、みんなで相談しながら解決していただいても考えています。

今後も、毎月第2土曜日の9時30分から12時までは午前の部、13時30分から18時までは午後の部を開催していく予定です。

松江SNSの「Ruby勉強会 in 松江」コミュニティに開催日時などを挙げておりますので、興味がある方は、開催日に気軽に松江オープンソースラボにきていただければと思います。(高尾)

「松江SNS」: <http://matsuesns.jp/>

「Ruby勉強会 in 松江」: [http://matsuesns.jp/community.php?bbs\\_id=80](http://matsuesns.jp/community.php?bbs_id=80)



## 県内のオープンソースに関する動向

### ★ OSC 2008 Shimane

9月に「OSC2008 Shimane」が開催されました。本当に多くの方が来場され、島根県のオープンソースに対する関心の高さに改めて驚かされました。私自身もスタッフという形で参加し、会場設備やRuby勉強会のサポートなどを行いました。

サポート役として参加したRuby勉強会では、まったくRubyを書いた事がない方が私の隣に座られたので、一緒にリファレンスを観て、初歩的な部分の説明から行いました。

「irbを起動し、インタラクティブにRubyのコードを動かして頂くと、「こんなに簡単に動くんですね！」と驚いておられるようでした。そんな姿を見て、私も初めてirbでRubyと会話をしたあの時の感動を思い出しました。

その後、最後のセッションであります「LightningTalk」に発表者として参加させていただきました。完全に笑いに走ったネタでしたが、皆さんに楽しんで頂けたようで何よりです。

こうして「OSC Shimane 2008」は大盛況の内に幕を閉じました。

参加して感じた事は、本当に楽しくて、素晴らしいイベントだったという事です。来年も開催されるそう(?)なので、私もスタッフや発表者という形で、また楽しく参加できればと思っております。(中村)

島根で初めてのオープンソースカンファレンス(OSC2008Shimane)を開催することが出来ました。

開催に際してはびぎねっとの宮原さんをはじめ多くの方の御支援を頂くとともに、しまねOSS協議会の事務局を中心に多くのスタッフ・ボランティアの方達にお手伝い頂き感謝しております。

「OSC2008 Shimane」では当初300名程度の来場を想定し、9月12日(金)13日(土)の二日間開催しましたが、実際には来場者が500名を超え、そのうち県外からの参加も100名を超え、島根県におけるOSSへの関心の高さを実感したイベントとなりました。

このような素晴らしいイベントを通じ、島根でのOSSのリテラシーがさらに高まることを目指していますし、そのことにより現在普及と発展を続けるOSSを島根県でもいち早く取り入れ、そして他の地域とのネットワークを活かし、この地域の活性化につながればと期待しています。

このイベントは今後も継続していきたいと考えています。今回来場頂いた方、お手伝い頂いた方達はもちろんですが、今年参加頂けなかった方も次回はさらに充実したイベントにしたいと思っておりますので、是非次回も参加よろしくお願ひします。

最後に今回の「OSC2008 Shimane」開催に際し、関係して頂きました全ての個人・団体の皆さんにイベント成功のお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました、そして今後もよろしくお願ひ致します。(井上)

### ★ 島根大学のオープンソース & Ruby 講義

島根大学では昨年度(2007年度)より「情報と地域-オープンソースと地域振興」を開講し、オープンソースの技術的な知識だけでなく、社会的な位置づけ、産業としての可能性について学んでいます。

今年度(2008年度)前期には電気通信普及財団の援助も受けてさらにパワーアップし、国内外のオープンソースに関わる研究者、開発者、企業家を招聘して毎週密度の高い講義を行い、さらにSun MicrosystemsのJRuby Engineer Charles Nutter氏の特別講義も行いました。

また、昨年度と同様に松江市の援助を受けて開講している「Rubyプログラミング」を今年度後期も継続して開講し、RubyやRuby on Railsの習得を目指しながら、Rubyに関わる開発者の講義を聞き、Rubyの今後の発展、活用の可能性について探っています。(野田)

2004年度から全国で開催されているOpen Source Conference(OSC)、念願であった島根での開催を9月12日(金)~13日(土)にかけて行いました。2日間通して述べ550名の参加があり、これはOSC史上において開催地人口比での最高記録です!!

「最首vs.まつもとゆきひろ対談」「オープンソースと教育シンポジウム」「オープンソースと地域振興シンポジウム」の特別3本立て記念企画を始めとし、25本の各セッションに県内はもとより全国各地から多数のオープンソース関係者が集結し、日本の「オープンソースのメッカ」島根、「Rubyのメッカ」松江をアピールすることができました。(野田)



### <準備、運営スタッフ雑感>

準備や当日運営スタッフを募集した時には「20名も集まればよし」と思っていたのですが、最終的には県内外から50名の方が手弁当で協力してくださったことに驚くとともに、心の底から感謝したのでした!

会場レイアウトの決定、会場設営や配布資料セットなどの事前準備は手さぐり状態でしたが、びぎねっとの皆様の温かいご支援で準備も整い、当日の運営も全スタッフが持ち場で献身的に尽くしてくださいました。このことが、あの盛り上がり、OSCしまねの大成功に結実したのだと思います。

チームワークとスタッフひとり一人のひた向きな姿は、これまでの「しまねOSS協議会の活動の積み重ね」によって培われたものだと感じ、あらためて協議会の歴史を噛みしめたのでした。

間違いなく協議会史の1ページを飾った今回のOSC。そして、OSCを成し遂げたことで、新たな協議会史の幕開けを予感させる「充実感と自信」を得た我々スタッフでした。(杉原)

### ★ Ruby合宿 '08 - 学生たちとの夏休み -

8月8日から5日間の日程で、出雲高等技術校に泊まり込みでの勉強会「Ruby合宿」を開催しました。集まったのは16人の学生(一部非学生)で、「なんらかプログラミングの経験はあるけれどRubyはまだ」という人たちです。

まずは「まつもとゆきひろ」氏の講演で、皆のモチベーションが上がりました。

2日目~4日目はRuby on Railsを使ったブログサイトの構築を課題とした講習と演習です。実質3日間という短さでしたが、4つのグループに分かれて和気藹々とした雰囲気の中にありながらも真剣に勉強を進め、最終日の発表会までこなしました。短い時間で結構なサイトができ、Rubyの生産性の高さを実感してもらえたと思います。

また、企業訪問、県内IT企業との懇談会を通じて、学生たちに意外と知られてなかった県内IT企業についてもじっくり知ってもらえました。

今回、島根県としては初めての取り組みでしたが、将来、Ruby合宿に参加された学生たちが島根のIT産業を担ってくれることを期待しています。(梶)